

ノラ猫トラブルのない 地域社会をめざして

5 全体まとめ

保護・譲渡

猫の保護・譲渡は、去勢不妊手術して現場に戻すのと異なり、大きなリスクがあります。

- ・ 病気の検査やワクチンなどの経費が必要。
（病気が見つかったら、治療費も）
- ・ 保護猫のお世話に追われ（特に子猫）、ノラ猫対策が滞る。
（地域のノラ猫対策ができなくなり、**本末転倒**）
- ・ どれだけ頑張っても、譲渡できない猫が家に残る。
（徐々に頭数が増え、**多頭飼育になる危険**）

一旦保護したら「飼い猫」ですので、捨てたら「遺棄」です！
保護しなければ「飼い主のいない猫(=ノラ猫)」です。

活動の中で、**子猫を保護するか否か**、
判断せざるを得ない場合もあると思います。

猫の保護・譲渡活動は、
金銭的、時間的、労力的なリスクが高いので、
ご自身のキャパシティをよく考えて、
絶対に無理のない範囲で行ってください。

「可哀そう」との思いから、
どんどん子猫を家に入れて、
ついに地域猫活動ができなくなった
ボランティアさんが沢山います。



愛猫家の方へ①

「猫の命を守りましょう！」

= 地域共通の価値観にはなり得ません

愛護の気持ちが前面に出ると

ディープな活動の雰囲気になります

→ → → 一般住民が協力してくれなくなる

愛護の情熱は心の内に秘めるのがコツ

自動車にたとえるなら

愛護の情熱 = エンジン

被害対策 = ボディー (外見)



愛猫家の方へ②

「わたしが猫を守ります！」

ではなくて

「猫が地域住民から嫌われないようにしよう」

と考える

- ① 住民に安心を提供すると・・・
- ② 猫を見る住民の目が
少し変わる（殺気が減る）
- ③ 人の目が変わったのを感じた猫は、
安心して可愛らしい姿を見せ始める
- ④ 猫が徐々に地域の人に
受け入れられていく

猫の魅力を信じましょう

before



after



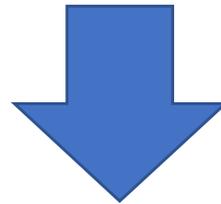
愛猫家の方へ③

「わたしが猫を守ります！」

ではなくて

「猫が地域の人みんなから嫌われないように
するにはどうしたらよいか」

を考える



まずは、活動者自身が、
地域の人と仲良くなること

地域で「浮いている」人の活動を、
一体誰が協力するだろうか？

猫が嫌われ者にならないために

愛猫家として

あなたはなにができますか

人と猫が共生できるかどうかは、

愛猫家である「あなた」の

行動にかかっています

愛猫家以外の方へ

必要なのは、問題解決に向けた合理的思考です

「猫好き」

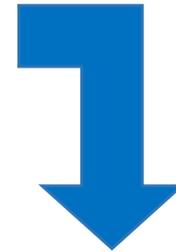
「猫被害者」

「どちらでもない」

立場の違い

価値観の違い

熱意の違い



自分と相手の考えの違いを埋める必要は全くない

過去のうらみつらみも問題解決の足かせになるだけ

対策をしないと、恐るべき速度で事態は悪化します

合理的に考え、立場を超えて連携し、手早く対策しましょう

どんな立場の人も、ノラ猫だらけの状態は良くないと思っている

そこが（そこだけが）一致点

ノラ猫の数を減らすため、協力しましょう

ひとりひとりの気持ちに寄り添うこと

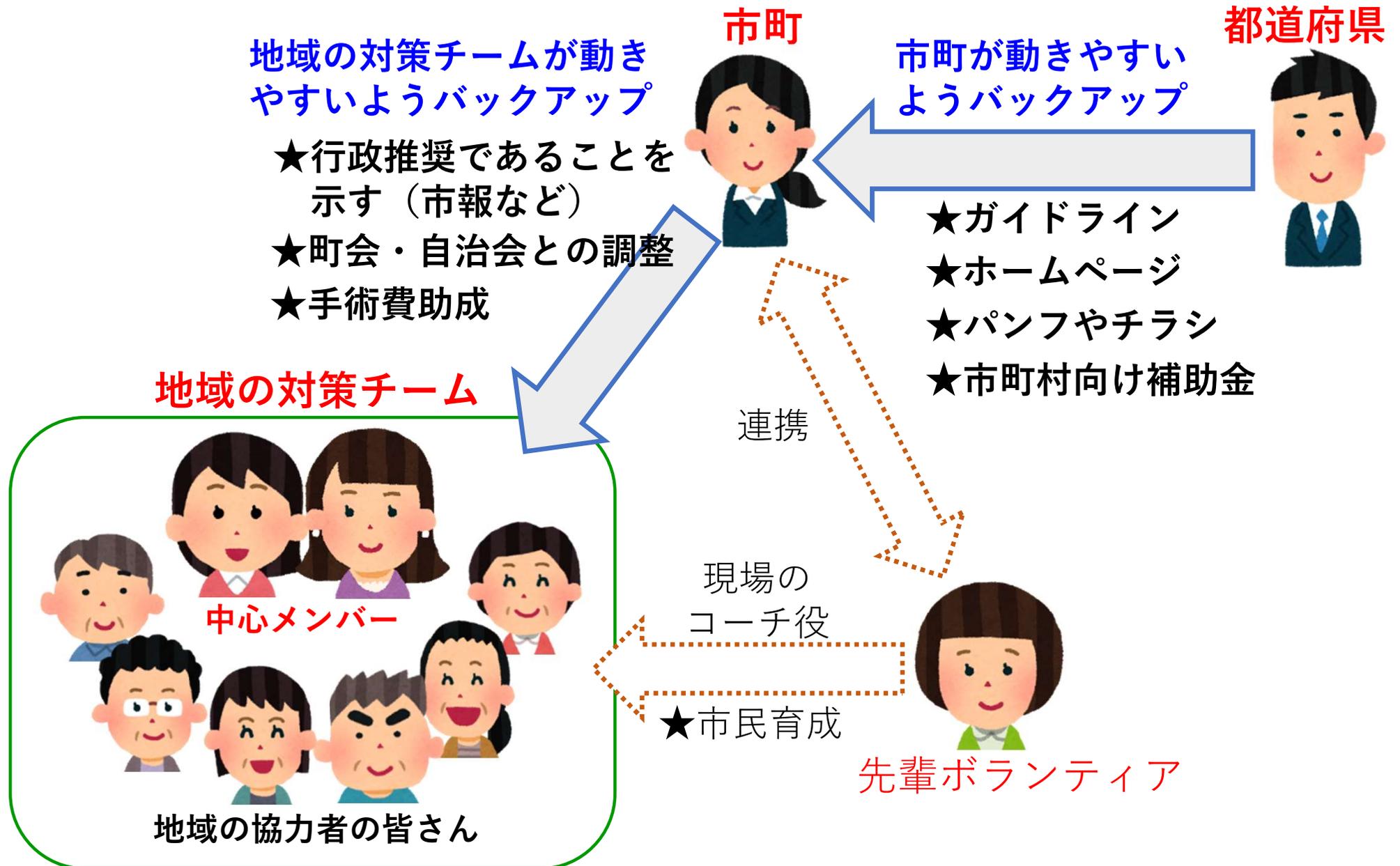
地域のひとりひとりへのアプローチを後回しにすると、対策は決してうまくいかない。

たとえ全頭手術が終わっていても、猫をめぐる住民の不安が解消していないならば、住民と猫が共生しているとは言えない。

ノラ猫トラブルのない暮らしやすい地域社会づくりのために必要なことは

住民の不安を除去し、安心を提供すること
＝ひとりひとりの気持ちに寄り添うこと

適切な役割分担が成功の秘訣



地域の問題は地域で解決！

各種資料をまとめました
ぜひご利用ください

